

「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	光の家栄光園	受審(実施)年度 (※)	平成29年度	施設番号	34-0009
-----	--------	-----------------	--------	------	---------

※第三者評価または利用者調査実施の年度

項目	評価結果に基づく現状分析 (平成29年度)	改善計画 (平成29年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成30年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定があった場合の実施状況 (平成 年4月30日時点)
虐待防止マニュアルの内容の浸透と利用者支援の場面実践していくことが求められる。	虐待防止委員会で、「自己分析シート」の結果をもとに、事業所内でよくある事例に対する解決策を検討し、「虐待防止・不適切支援に関する解決・改善・対応マニュアル」を作成している。また、職員会でマニュアルの周知を図るとともに、不適切な対応の事例について職員が話し合う機会を設けて、認識の共有と意識の向上に努めている。一方、利用者調査結果からは、職員の言動に対して不満に感じている声が複数あがっている。今後は、具体的にどのような言動・対応が利用者の不満につながるかを検証し、日常の支援場面での実践が求められる。	虐待防止委員会が主体となり、「障害者虐待の定義・特徴」「施設内虐待の防止に求められる視点」「障害者虐待の身体拘束」等について、職員会において、年間5回の虐待防止研修を行った。又、「自己点検シート」を配布して、全職員の意識向上と虐待防止を図っている。利用者支援の対応検討において、より丁寧な説明の大事さを共有するとともに保護者への説明も心掛けている。	① 実施済み 2 実施予定 (平成 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (平成 年 月) 具体的には以下のとおりです。
職員が主体的に業務改善をすすめる働きやすい職場環境の整備に取り組まれない。	職員の負担軽減を図るため新任職員を採用し、職員からゆとりが出たと評価する意見が複数ある一方で、時間外勤務や有給休暇取得について改善が必要とする意見が職員自己評価からあがっている。また、記録の簡素化、省力化や時間外に業務を終える努力が必要とする等、課題提起がなされて、事業所としても検討を重ねている。これらは、法人全体として業務の見直しや省力化等に取り組んでいるが、職員が主体的に取り組める環境やしきみ、体制整備をすすめる必要があるため、まず経営層がそうした取り組みを進めることが期待される。	業務省力化について、施設内でワーキンググループを就労・生活・会議の3つに分けて、職員全体からの改善に向けた意見に対し、具体的な対応を行っている。就労では工賃の締め切りの変更、生活では鍵の束を小分けにする、会議では記録用紙の変更等で効率向上を図っている。	① 実施済み 2 実施予定 (平成 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (平成 年 月) 具体的には以下のとおりです。
記録技術の向上等によって、タイムマネジメント力の向上に向けた取り組みが期待される。	個別支援計画の定期的な見直しの仕組みは定着しており、利用者の意向・要望を踏まえた目標設定と達成状況の把握については、職員間で共有がなされている。一方、日々の利用者の状況を記載するケース記録の記載方法・内容は、職員によって差異がある他、記録のための勤務時間の超過等が課題になっている。今後は、ケース記録の記載方法等のルール化、記録技術の向上等によって、利用者の心身状況や支援経過がさらに把握しやすいものとなるような記録力とともに、タイムマネジメント力の向上に向けた取り組みが期待される。	ケース記録、日誌の記入については、記入すべき項目と省いてもよい項目等について選別を行った。それについては、各課打ち合わせ等で確認を重ねている。一方で提出時にチーフから個別に助言を行うことで具体的な動きにつなげるようにしている。	① 実施済み 2 実施予定 (平成 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (平成 年 月) 具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「ときよう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。